



笹の葉が風にゆれています。

たくさんの動物たちが、七夕の準備をしています。それぞれの思いを短ざくにこめて、キラキラ星のきらめく夜が楽しみです。七夕の風情あふれる今月の表紙です。

バレエやおはやしが大好きで、得意な笑顔の優しい女の子が描いて下さいました。犬やハト、ふくろうが好きと教えて下さいました。夏の涼やかさが感じられる素敵な表紙です。

院長はじめ、スタッフ一同心より感謝いたします。



医療法人 優慶誠会

豊郷たちかわ皮膚科クリニック* 

あるサッカーコーチの言葉が目にとまった。

人の話しを聞く時、先ず目で聞く様に。

そして、おへそで聞く様に。

そして、耳で聞く様に。

人間は、音と言う情報を耳から取り入れる。

しかし、目で聞くという動作が入ると、自然と語り手さんの目を見る。

次に、へそで聞こうとすると、自然と体が語り手さんに向かって正面を向く。

耳で聞くだけでなく、体全体が語り手さんに向かう。

そこに、無言のコミュニケーションが生まれる。

私はいつも人の目を見て話をする様心掛けて会話をする様にしているが、中には目が合わない方もいる。又は目を合わせない方もいる。

会話はコミュニケーションを作るための手段でもある。

そして、その時の視線、体の向きは、コミュニケーションを更に高める効果がある。

コミュニケーションが高まると、お互いの心が通じ合い、笑顔も増えるだろう。

私はこれらの話しに深い共感を覚えました。

なぜなら、その一例に電子カルテの存在があります。

私は開業する今から約 4 年前、患者様と向き合って診察をしたいという思いから、患者様と向き合える様な形の机を準備し、スタッフによるパソコン入力をお願いしました。診察の短い時間の多くを、患者様の表情・反応・話し方の観察をしながらの診療を可能にするためと考えたからです。

初めて会う人間同士が限られた時間の中で分かり合うためには、スムーズにかつより深く話をしたり、聞いたりすることでより良い診療が行えます。

また患者様の治りたい気持ち、私たちの治したい気持ちの一つになり、相乗効果が出るのも思っています。今後も医学は進歩し治療方法は変わっていきませんが、この聞く姿勢、治りたい、治したい気持ちは今後も変わることはないでしょう。

院長・拝